

阿蘇草原再生に関する最近(昨年以降)の主な様子より

① 阿蘇世界ジオパーク認定(2014年9月)

～前年の世界農業遺産認定に続く、7市町村一体で
つかんだ「世界ブランド」～

阿蘇郡市と山都町(一部)が世界的に貴重な地形や地質を
楽しむ世界ジオパークに認定。国内7例目。

阿蘇ジオパーク推進協議会(会長:佐藤義興阿蘇市長)が
中心となって、世界ジオパークに求められる環境整備や、
地元ガイドのスキルアップなどの取組みが評価された。次
の世界文化遺産に向けた大きな弾みに。



認定決定の知らせに、歓声が沸きおこる阿蘇地域の町村長のみなさん

② 阿蘇7市町村が景観法に基づき景観条例制定(2014年9月)

～阿蘇7市町村が9月議会で足並みそろえて、景観法に基づく景観条例を制定～

国の重要文化的景観選定に不可欠なステップ。
選定されれば、地域の人々の生活・生業により維持されてきた阿蘇の景観について、文化財としての価値が認められることになり、「阿蘇」の世界遺産暫定一覧表入りに向けて大きく前進するとともに、草原の価値・魅力を多くの人々に発信するための効果的なツールになることが期待される。



●2015年度内に文科相に「国の重文景観選定」を申し入れへ

阿蘇郡市世界文化遺産登録事業推進協議会(会長:佐藤義興阿蘇市長)は総会(5/12開催)で申出方針確認。

③ 阿蘇世界農業遺産基金の設立と寄付(2014年6月)

～阿蘇の草原を核とした持続的な農法保全のために～

阿蘇地域世界農業遺産推進協会は企業や個人から寄付金を募る「阿蘇世界農業遺産基金」創設。
昨年9月肥後銀行(甲斐 隆博頭取)が世界農業遺産に登録された阿蘇地域を支援する「阿蘇グリーン定期預金」の運用収益の一部にあたる616万円を「阿蘇世界農業遺産基金」に寄付した。



工藤会長(当時 右)に寄付目録を手渡す甲斐肥後銀行頭取。中央は蒲島県知事

④ 「第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇」開催（2014年11月）
 ～草原の持つ機能と価値を高め、保全に向けた大きな枠組みづくりを採択～

第1回大会（平成7年大分県久住町）から20年目の記念大会が阿蘇市内牧で開催。

全国22都府県から530名以上のおとなと子どもが参加。草原の大切さを伝えることなどを中心に、「子どもサミット宣言」、「シンポジウム宣言」、「サミット宣言」として、次のような点を盛り込みアピールした。

- ・「公益的価値と経済的評価」づくりへ動き出すこと
- ・「草原百選」制定への動き
- ・「草原保有」自治体間の連携促進へ



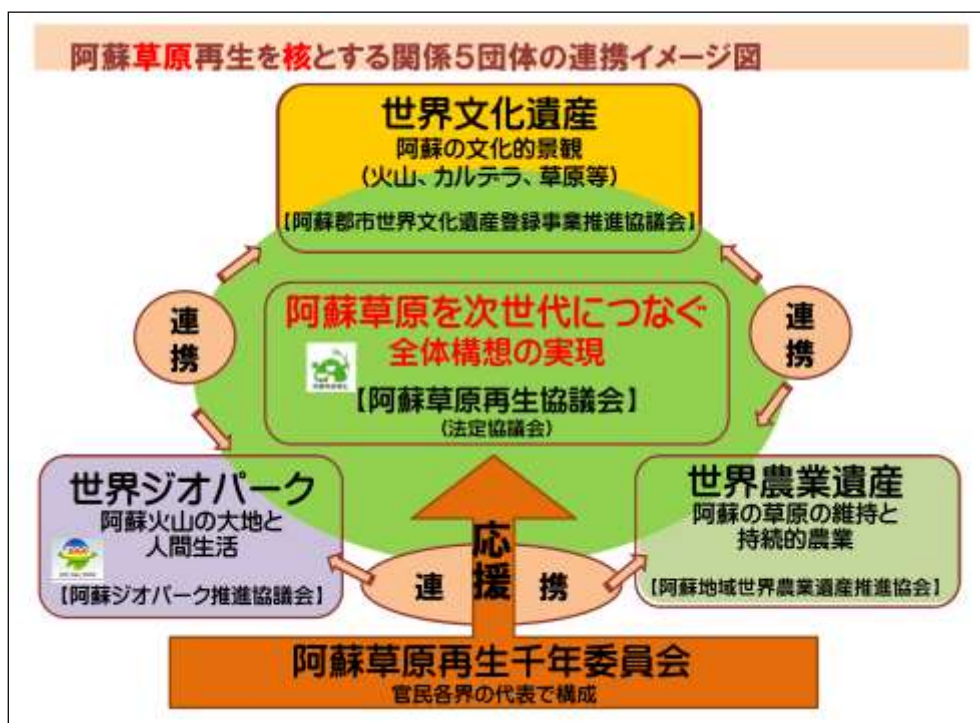
全国草原サミットで宣言採択後、壇上で手をつなぐ14市町村長のみなさん
 2014/11/24

⑤ 阿蘇地域各種団体事務局連絡会議（2014年7月～）

～阿蘇世界農業遺産基金の設立を機に、阿蘇地域内の一体感創出へ～

阿蘇地域で展開されている「世界文化遺産」「世界ジオパーク」「世界農業遺産」「草原再生」に関する団体の事務局などが一同に会した連絡会議を定期的開催。

これまでは、団体間の情報共有や連携が必ずしも十分ではなかったため、本連絡会議の開催により、地域が一体となった「草原、農業、牧野組合の維持」などに関する意見交換や具体的な取り組みの検討が行われている。



⑥ ミラノ国際博覧会(2015年5月～10月)

2015年5月、イタリアで開催した国際博覧会(ミラノ万博)の日本館イベント広場に阿蘇の世界農業遺産が出展計画。

「食」をテーマに世界農業遺産の認定地域である石川、大分など4県と共同で出展。熊本県は草原の維持管理と結び付いた農畜産業をPRし、阿蘇を代表する食材のあか牛肉も出展へ(10月)。熊本の魅力を世界に発信するとともに世界農業遺産の認知度向上、さらにはミラノ万博出展をきっかけとした阿蘇住民の意識の高揚につながることを期待される。



⑦ 阿蘇草原保全活動センター<学習館・情報館>が2015年4月オープン ～草原維持・再生の「拠点」へ～

阿蘇草原保全活動センターは、環境省が阿蘇地域の阿蘇草原保全・再生・学習の拠点として整備する「草原学習館」と隣接する阿蘇市が草原の利活用及び観光と草原・農業をつなぐ循環型観光の拠点として整備する「草原情報館」の総称。

「草原学習館」は、主に草原環境学習、野焼き支援ボランティア研修等の機能を、「草原情報館」は、主にセンターの総合受付窓口、草原に関する情報発信、エコツアーやガイドの仲介等の機能を担う。

(公財)阿蘇グリーンストックと(一財)阿蘇テレワークセンターが入居し、阿蘇グリーンストックがセンターの運営管理を受託。(阿蘇市内牧小里 延べ床面積 1332 m²)



⑧ 阿蘇くじゅう国立公園80周年記念事業の実施

～「保全と利用」をさまざまな企画を実施し啓蒙～

周囲約 100 kmに及ぶ世界最大級のカルデラ地形とその北東部に連なるくじゅう火山群の火山地形からできた国立公園。阿蘇五岳の中岳やくじゅう連山の硫黄山は活発な火山活動が続く。



火山活動でできた多くの山々ではミヤマキ

リシマの群落や、裾野には雄大な草原が広がり大きな特徴となっている。

環境省、熊本・大分両県、15市町村で実行委員会(委員長:佐藤義興阿蘇市長)を構成し、保全と利用について啓蒙された。

⑨ 農水省の日本型直接支払制度の具体化で阿蘇草原保全が大きく前進

～集落の力で農地やムラの環境を守る取組みを支援～

農業・農村は、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能を有しており、その恩恵は県民はもとより多くの人々が享受。



優れた景観や環境を有する「阿蘇草原」を次世代へ引き継ぐために、日本型直接支払制度「多面的機能支払交付金」が牧野組合の草原維持管理の取組みにも可能に。

交付金は農振農用地等の面積に応じて交付されるとともに、組織の活動に係る費用に幅広く利用できる。

⑩ 「阿蘇草原保全支援システム」発表(2015年2月)

～草原維持・再生の「恒久財源」確保に道筋～

第4回阿蘇草原再生千年委員会「ステージⅡ」(2/4開催)で蒲島郁夫熊本県知事が発表。今後10年間野焼き面積維持を目標に①野焼きボランティアの運営②野焼き再開事業(放棄地300ha削減)③普及・啓発事業の推進と必要財源(約3250万円)確保の計画が示された。募金や補助金等臨時的収入に依存する現状に対し、不足分は県と7市町村で負担(セーフティネット)する恒久的な仕組みを示唆。行政、阿蘇草原再生協議会、阿蘇グリーンストック等で構成する連絡会(事務局は阿蘇地域振興デザインセンター予定)で計画策定と進捗点検を実施。